

日本

# ハンザキ研究所ニュース 2013(2) : 通巻 No. 86

発行 2013年2月28日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良



.....  
キツネ?・!・!が一匹 1,500 円です

無論のことですが哺乳類ではありません。キツネ一匹 1500 円也と値札の付いたグロテスクな 1 匹程の魚が出されているのを見つけました。豊岡駅前のアイティ内の魚屋さんは私の大好きなお店だ。豊岡での会議などで出向く時には必ず行きと帰りと 2 回は店の中を廻る。今までもマトダイ (的鯛?馬頭鯛?) を手に入れたりしているが、今回はタナカゲンゲと和名された魚をゲットしたのです。店員にキツネですか?と問うとキツネダラという答えが返ってきました。ハンザキ研に帰ってから日本産魚名大辞典 (日本魚類学会編) を開いてみると“キツネ”はベラの仲間のキツネダイ (玄界灘の方言)、ウツボの新潟県の方言、スズキ科のアラ (小田原の方言) の記載だけです。無論、この写真を見て分るように全く外見が異なっています。キツネダラという呼び方はアシロ科のヨロイイタチウオ (小浜の方言) と言うことになっていました。アシロなんてどんな魚か私も知りませんが。



流し一杯の巨体

実は、何年か前に生野のスーパーで頭の部分だけが“あら”として売られていたのを買って食べてみたことがあったのでした。姫路の水族館 40 年の飼育係でも出会ったことのない全体像の分らない魚が身近な魚屋の店頭で並んでいたのです。今回は「食ってみるまでが水産学」と教え込まれた人間としては即座に挑戦です。会議は午後からですが先にお買われてしまったのはと背負子に 5 ㎏程の重さをもものともせず 1 日中背負って持ち帰り、さばきました。本名がタナカゲンゲというスズキ目ギンギョ科マユガジ属と言う分類学上の魚であることを調べました。魚ちり用としてのニューフェイスだそうですが、表皮がブリブリ・ズルズルのカラーゲン?たっぷりの魚でした。なんだか委員会に出席するよりも珍魚との出会いを期待しての豊岡行のようです。日本海は瀬戸内海と違いますね!



写真1 城崎マリンワールドの円山川水槽



写真2 世界最大のハンザキ



写真3 豊岡のオーちゃん・グッズ



写真4 オーちゃんもお手伝い?



写真5 マスコミ・フィーバー



写真6 カラタチの凍死黄変部 (赤○)



写真7 ユズリハの若葉



写真8 厳冬期のユズリハの葉



写真9 与布土川の浚渫工事現場



写真10 写真9の左岸にある人工巣穴(赤○)



写真11 中国サンショ“花椒”



写真12 花椒は種子を取り除いてあった

## 日本一のオオサンショウウオ

会員 高田 厚志 (城崎マリンワールド)

兵庫県内には水族館が3園あり、栃本所長が館長をされていた姫路市立水族館、ウミガメ研究の第一人者である亀崎園長のおられる神戸市立須磨海浜水族園、そして、ここに紹介する日本一大きいオオサンショウウオを飼育展示している城崎マリンワールドです。兵庫県は南北に長く北は日本海に、南は瀬戸内海に面していますが、この事をご存じない方も結構おられます。城崎マリンワールドは兵庫県北部の日本海側に位置する、豊岡市街から少し外れた海岸にあります。実は今回、2頭飼育しているオオサンショウウオの内の1頭(日動水協登録番号054)は全長、体重共に日本動物園水族館協会加盟の園館中で飼育個体最大であることが2009年の測定以降継続されてきました。加盟園館では年に1度測定結果を報告することになっており、今回はその大きさを皆様にお知らせする意味も含めて測定の様子をプレス・リリースすることにしました。多くの方々に知って頂くことはオオサンショウウオの保護や関心を持ってもらうのに有用と考えたからです。

この2月21日、雪の降る寒い日でしたがテレビや新聞などの報道関係者が多数見守る中、まずは小さいメス個体の測定から始めました。日本ハンザキ研究所の栃本所長や鳥取大学の岡田純博士、三重自然誌の会の清水善吉さんなどの立会いの下で実施しました。メスに続いていよいよ大物のオスの測定に入りました。オオサンショウウオの内臓や骨格に負担をかけることのないように特製の測定器を使ってスタッフ10人がかりでの大作業です。結果は全長150.5センチメートルで昨年より3ミリの成長、体重の方は37.4キログラムと1.4キロも増えていました。実はこのオオサンショウウオに関してお知らせしたいエピソードがあります。1991年に姫路市内の工事現場で保護された96センチの個体が姫路市立水族館に緊急保護され、当時の栃本副館長が飼育担当だったのです。そして、1994年に城崎マリンワールドがリニューアルした時に円山川水槽の主として迎えられたのでした。ですから栃本所長は19年ぶりのご対面となったわけで何とも複雑な心境であったのではないかと推察します。やって来た時は全長96.5センチ体重6.2キロでしたから19年間で全長が54.0センチ、体重が31.2キロも増加したことになります。年平均で2.8センチ1.6キロもの大変な成長を示しています。自然界と飼育下とでは比較にならないと思いますが、成長を知る上で参考数値になると思います。

測定するに当たり栃本所長からは取り上げの際、自重で内臓や脊椎骨を傷める恐れがあるから取扱いにはくれぐれも慎重にとのアドバイスをいただき、従来使用の測定器を大幅に改善し新しいものを作りました。体が大きいだけに特注サイズでしたが無事に測定ができました。結果を日動水協の担当者に報告したところ、全長体重共に日本一ですとの連絡がありました。展示水槽の同居者であるイワナやヤマメをいつでも食べられる状態である今の環境は、彼にとって恵まれた状況であるかどうかは明らかではありませんが、一日でも長く多くの皆様に見て頂けるように、細心の注意を払って飼育展示していきたいと考えています。日本が世界に誇るオオサンショウウオのさらなる記録更新を目指して・・・

## 世界最大のハンザキ

城崎の高田飼育課長さんが“日本一・・・”というニュースを発信してくれました。ハンザキは日本特産だから日本一は世界一になります。無論、日本産ハンザキは世界各地で飼育されているので、事実を確かめるのは大変です。しかし、この記事を読んだら？こっちの方が大きいぞと名乗り出てくるところがあるかもしれません。無ければ世界一ということになるでしょう。ハンザキの仲間はアメリカ種と中国種との3種だけですが、米国産は最大記録が74㌘と言われ、最近では50㌘を越すような個体が見つからないそうです。

中国ハンザキは、当 NPO 法人の会誌あんこう 8号で増子善昭さんに訳していただいた2010年刊の中国産両生類の図鑑には2㌘を越えるとあります。中国大陸の大きさから考えるとその位になるかもしれないなと思ってしまいます。飼育下での記録も55年とありますのでこれが真実ならばシーボルトの51年を超える最長記録になります。色々な世界記録を示したギネスブック(1982年講談社刊)には1390㌘という記載もあります。また、さこ書房刊のギネス2001には1,800㌘、65㌘ととてつもないサイズの記載もあります。これらはいずれも中国ハンザキの記録です。日本でも160㌘とか1丈(180㌘)などの記載もあるのですが、いつ誰がどのように測定(例えば背中カーブに沿って測ると吻端から尾端までを直線的に測るとで違いが出ます)してその標本が保存されているのかどうかということではなかなか信憑性のある数字が見当たりませんでした。これまでの最大記録は広島市安佐動物公園に展示されている標本で1,505㌘、27.6㌘というものでした。この個体は捕獲された時に148㌘、24㌘という野生としてのサイズであったということで、ハンザキの最大記録としての全長150㌘説が証明されたのです。この点で城崎のハンザキが記録を現在も更新中ということになり、今後が大変に楽しみなことです。

ところで、岡山県蒜山にある観光ドライブインに164㌘、46㌘という標本が展示してあります。姫路水族館時代に一度きちんと測定させてほしいとお願いしていましたが、果たすことができませんでした。学名が付けられていて日本のハンザキと言うことになっていますが実物はチュウゴクハンザキでした。また、岡山の川崎医科大学の西松伸一郎先生が飼育されている中国産は全長1,350㌘と1,290㌘、飼育年数も48年という報道が2007年にありました。しかも1959年に中国から輸入された(国交は無かった?)のものであり、日光の両生類研究所で飼育されていたものだそうです。その後8年が過ぎていきますので、その後の成長と共に生きていけば56年飼育となり世界記録を更新したことになります。西松先生には今年の日本オオサンショウウオの会での発表をお願いしていますので、こちらにも楽しみな個体です。現在、ハンザキ研で飼育中のハイブリッド(日本×中国)の大物2個体は、収容された時点で全長1,300㌘、16㌘と言うことでしたが、どうも大幅に成長しているように見えます。何しろ、各地のイベント出場時の取り上げの感触からはかなりの重量です。一人では運べないくらいの重さなのです。もう少し暖かくなったら、きちんとその後の成長状況を記録して皆様にお知らせしたいと思っています。私は目下、半冬眠中なので。

## 与布土川（よふどがわ）

与布土川は兵庫県朝来市山東町を縦貫して流れる円山川水系の河川である。ここにダムを造る話は、私がまだ水族館の現役時代の平成 13 年のことであった。兵庫県八鹿土木事務所（現在は養父土木）からの要請があってハンザキの調査が行われた。河川の左右には水田が続き水を取るための堰が多数作られており、水も清冽とは言えない川でハンザキの生息にはあまり良い環境とはいえなかった。集水域が広いためか、たびたび洪水の危機にさらされてきたようで、護岸のコンクリート化も進んでいたのである。その割に事前調査ではかなりの数のハンザキが確認されて対策が求められたのであるが、その後、ダム建設の見直しなどもあり進展がなかった。そこへ平成 16 年の台風災害が発生し道路と河川の境も消えてしまうような大きな被害が出て、ダム建設もゴーサインが出た。ダムとは別に災害の大きさから河川の早急な護岸工事が求められたため、河川生物に対する配慮があまりなされないままに護岸の災害復旧が実施された。中小の河川ではいたしかたない現状なのかもしれないが残念なことだった。それでも、人工巣穴での繁殖が確認されており（写真 10）、地域の皆さんは故郷の河川から自然が消えていくことに危機感を持ち“山東のオオサンショウウオを守る会”を結成して兵庫県自然保護協会のメンバーと一緒にハンザキの調査を始めたのである。しかし、今回改めて調査報告書を探してみたが、どうも中途半端な形で終わってしまったようだ。

その後は、養父土木事務所からの小規模な河川工事に伴う対策の相談は再々あった。例えば、護岸のコンクリートブロックの裾部分が流された後には、ハンザキブロックを押しこんで上部のブロックが陥落するのを防いだり、少量の浚渫工事（写真 9）に際してもハンザキ研に相談をするように入札の仕様書に記載したりで、ハンザキにとっても地域住民にとっても良い方向に向かっているようだ。

このような状況下で、平成 23 年度から朝来市教育委員会はハンザキの啓発事業予算を計上してくれたので、年 4 回の夜間観察会を実施することになった。平成 17 年に合併した旧朝来郡の和田山・朝来・山東・生野の 4 町域で実施するのが理想だが、そのためには地元を受け皿がないとなかなか難しい。教育委員会の担当者は調査用具の準備やマイクロチップの打ち込み実習を行って体制を整えた上で、とりあえず生野町と山東町での夜間観察会を実施した。山東町には“カエルの郷”と言うグループが活動していたからである。山東町の夜間観察会や工事現場からの緊急保護個体などで、現在の所 74 個体の登録ができています。これらのハンザキにはマイクロチップが挿入されているので今後も長く追跡が可能になった。

色々な方面から、現在のハンザキの生息数についての質問を受けることが再々あるが、残念なことに分っていない。それは調査されている河川がほんのわずかな数しかないからだ。機会があるたびに、できるだけ多くの河川工事現場などでのハンザキの個体登録が進められれば、保護につながって行くものと思う。

## ハンザキ研をめぐる植物

### ① カラタチ

カラタチは私の大好きな植物であることは、当ニュース 84 に書いた。樹木が専門の当法人竹村雅敏副事務局長さんから、当地では無理だと言われた。寒冷だからということだったが、この冬によく観察してみたらその理由が分った。若い細い先端部の枝が黄色く変色しているのに気づいたのである（写真 7）。マイナス十数度になるので細い茎が凍死してしまうのだ。これでは一進一退でなかなか大きくなるまいのだらう。冬季の凍結防止策を考えなくてはならない。一本見つけたカラタチの大木（？）は別荘予定地にあり、多分大きな木を植えこまれたからなのだろう。さて構内のカラタチは何年かかって花を咲かせ実を付けるまで成長できるのかどうか・・・

### ② ユズリハ

校庭には一本のユズリハが植えられている。黒川小中学校の何回生かの卒業記念樹だと聞いたが、今は大きく育って緑陰を作っている。この木を見ていると葉が一斉に生え変わり（古くはユズルハ“譲る葉”と言ったそうである）、大量の落ち葉を生産する。新しい葉は写真 7 のように常緑の葉から花が咲いたかのように生き生きとした姿である。その葉っぱもさすがに冬の厳しい温度では凍死しているかのように見えるが（写真 8）、なかなか強くてカラタチのような柑橘類とは違う。朝日が当たって温度が上がると、それまでの凍りついたようになって垂れ下がっていた姿からシャンと立ち上がってくる。

このコーナーを書くにあたっていくつかの図鑑を開いてみた。外国からの庭木かと思っていたが福島県あたりから四国九州などと中国や朝鮮半島南部にも自生して 10 メートルもの高木になるということだった。植樹されてから 20 年以上は過ぎている（閉校は平成 4 年）のに、まだ 4~5 メートルなので若い木なのかもしれない。そして雌雄異株で初夏に花が付き秋に実になるとあったが、花も実にも気が付かなかった。雄株なのかもしれないが 1 本しかないのでは仕方がないが、外見から雌雄が分るのだろうか？何本か植えてみたいと考えている。若い葉は茹でて食用にされることがあるそうである。

### ③ サンショ再び

サンショについては当ニュース 83 と 84 に書いたばかりです。でもやはり気になるので、再びの登場です。香辛料コーナーで物色していたら味道至福“花椒”中国さんしようと言うのを見つけました。辛いので使用に際しては注意をしてくださいとのことであり、すぐに飛びつきました。結果はあまり辛くなかったので残念でした。しかし、よく見ると中の黒い実が取ってあったのでびっくりしました。あの小さな種子を取り除くなんて手間を掛けてあったのです。私には到底挑戦する気にはならなかったことでした。黒い種子が残っていてもミルで挽きつぶしてしまえば問題ないことです。このサンショの黒いつぶらな？瞳を銀谷工房のお母さんに無理を言ってハンザキ・クッキーに付けて頂きました。サンショ入りクッキーに画竜点睛とばかり一人満足しているところです。

ハンザキ研日誌

2013年2月

- 1 日 兵庫県中播磨県民局環境課より 3 名来所
- 2 日 ハンザキ研ニュースNo.83 納入
- 6 日 株式会社ランデスより 2 名来所
- 8 日 12 月 15 日以来 55 日ぶりの下山
- 9 日 中播磨県民局にて中播磨環境交流会議で“市川の自然”講演
- 11 日 1トトラック車検へ
- 12 日 姫路市夢前町に建設される産業廃棄物場について市民より相談
- 19 日 ・円山川水系自然再生推進委員会、豊岡にて
  - ・タナカゲンゲ購入（豊岡にて）表紙参照
  - ・ハンザキ研ニュースNo.84 納入
- 21 日 城崎の水族館へハンザキ測定見学に、三重の清水善吉さん夫妻と  
全長 1,505 ミリ 37.4 キロで最大の記録更新（本文参照）
- 24 日 事務局会議 9 名
- 27 日 第 1 回大阪府河川周辺の環境保全審議会へ（安威川ダム自然環境保全対策検討  
委員会から名称変更）養父志乃夫和歌山大学教授会長に

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

申し訳ないことに、ニュースの発行が完全にストップしています。今は 8 月半ばですが、どうも体調だけでなく脳味噌の状態も悪いようです。と、なんども言い訳ばかりしていても仕方ないので、何とか頑張って追い付きたいとあせっているところです。サンショの力を借りて何とか脳の活性化をさせてみようとしていますのですが、霊験あらたかとはいかないようです。この号が 86 号になりますが 7 年過ぎたところでのスランプでしょうか。なんとかあと 3 年継続させて 10 年間での 120 号まで頑張りたいものです。問題はその先のことですが（今でも問題なのですが）、後を継いで誰かがやってくれないとストップしてしまいます。一人の人間が月刊で 8 ページのニュースレターを書き続けるのは大変なので、多くの方々からの投稿を期待しています。

そもそもが、このニュースレターは、とにかく自分たちの活動状況を発信せねばならないと、当初は 5 ページ（白黒 4 ページとカラー 1 ページで 50 円の単価）のコインコピーを一人手作業でホッチキス止めして始めたものでした。部数も 300 部くらいでしたが、今では 8 ページ 1,000 部、単価 30 円ほどで納品されるので助かります。120 号にまで届いたならば製本して一冊の本にしたいと考えていますが、この調子では実現の程は不明です。どうも言い訳と愚痴ばかりのツブヤ記録になってしまいましたが、悪しからずもう少しお待ちください。